

議会ニュース

・道外行政調査報告②

●子育て支援特別手当交付事業
子供の誕生を祝い、健やかな成長を促すため、第1子に5万円、第2子に10万円、第3子には4歳まで毎年10万円（総額50万円）、第4子以降には4歳まで毎年20万円（総額

●移住・定住視察旅費補助金
南大隅町への移住・定住を真に希望する町外者が、町内の宿泊施設を利用し、町の現状を視察・確認するための旅費について、往復の交通費と宿泊料の50%、5万円を上限に助成する。

●住み続ける住宅助成事業
既存の住民の住宅改修に対し、事業費の15%以内で25万円を上限に助成する。
なお、改修をするのが子育て世帯の場合は、事業費の20%以内で、30万円を上限に助成する。

●移住・定住促進家賃補助金
町内の賃貸住宅に居住する転入者に対し、入居月から1年間、毎月の契約家賃から住宅手当等を差し引いた額の50%以内で、月額2万円を上限に助成する。

100万円)を支給する。

●保育料軽減事業
子育て世代の負担軽減のため、第1子と第2子の保育料を半額助成し、第3子以降については全額を助成する。

●給食費軽減事業
町立の幼稚園・小学校・中学校に通う児童生徒の給食費を軽減し、自己負担額を一律で月額1千円とする。

■調査を終えての所感
南大隅町が様々な支援事業を行っている現状には目を見張るものがあります。
温暖な鹿児島県での対策が一概に本町でも有効かは別として、空き家の情報発信や移住・定住のための施策及び情報発信については検討してみたい価値はあると感じました。



議会ニュース

・道外行政調査報告①

議員による道外行政調査は4年に1度実施しており、今回は10月22日から26日にかけて、9名の議員が九州地方の4市町の行政調査を行い、第4回定例会において報告がなされました。
(掲載内容は報告書を要約したものです)

鹿児島県肝属郡南大隅町
人口 7,308人
世帯数 4,012世帯
面積 213.57km²
九州本島最南端に位置する農業と水産業の町で、平成17年3月に根占町・佐多町が合併して誕生しました。人口減少率と高齢化率が非常に高く、そのため空き家が増加したことから、様々な対策を行っています。

■空き家対策の概要
町内に不動産業者がいないことから、町が空き家の情報集約・発信を行う空き家バンク制度を平成22年に開始し、所有する空き家の賃貸または売却を希望する空き家バンク登録者と移住等希望者との間の連絡調整を行っています。
(※条件交渉や契約については当事者間で行い町は関与していません)
また平成28年度には町内にある1276棟の空き家の調査を実施し、状態に応じてA～Eまでの5段階にランク付けを行いました。
(※Aランク・補修が少なくて居住可、Eランク・倒壊で他に影響を及ぼす可能性あり)



南大隅町の取り組みについて説明を受ける

●空家等環境整備事業
空き家バンクへの登録を条件に、空き家に残っている家

●定住・移住対策の概要
移住を希望する人や、既に住んでいる町民が長く定住するため、住宅に関する各種助成制度が設けられているほか、子育て世代の移住・定住を増やすために各種子育て支援が行われています。

●定住促進住宅取得資金補助金
・新築・購入
町外から転入し10年以上居住することが確実な70歳未満の人で、新築または中古住宅を購入する際に、契約額の10%以内で100万円を上限に助成する。
(※新築の際に建設業者が町外業者の場合は上限は30万円)
なお、住宅を新築・購入する地域や移住者の家族構成、年齢に応じて助成額への加算金が設定されている。
・改修
賃貸希望者が確実にいる空き家を改修する際に、空き家の所有者に対して事業費の50%以内で25万円を上限に助成する。
(※改修業者は町内業者に限る)

鹿児島県・南大隅町 「空き家対策及び定住・移住対策」

道外行政調査報告

財道具の処分費用を5万円を上限として全額助成する。

●空家等解体撤去事業
建築後10年以上経過し、1年以上空き家の住宅の解体工事で、事業費が30万円以上の工事を対象とし、事業費の30%以内で30万円を上限に助成する。
(※住宅に付随する倉庫、車庫なども対象)

宮崎県児湯郡都農町
人口 10,169人
世帯数 4,003世帯
面積 102.11km²
宮崎県のほぼ中央部に位置し、お互いの町にトーヨータイヤのテストコースがあることから交流が始まり、平成26年には経済交流協定を交わし、互いの町のイベントに出店するなどつながりの深い町です。

宮崎県・都農町 「道の駅「RS」の運営体制」


■道の駅「つ」の「オープン」に至った経緯
都農町では2020年に町政100周年を迎えるにあたり、①中心市街地活性化、②保健・医療・福祉の連携充実強化、③災害に強いまちづくりの3つを柱に、まちづくりを進めています。
その中で、衰退している中心商店街の活性化のため、にぎわい創出の拠点として、地域の農・畜・水産物や加工品、工芸品などの販売を行う、道の駅を、県内でも有名な一之宮都農神社と一体化した形で平成25年に開設しました。
この道の駅を中心に、特産品である都農ワインのワイナリーから都農駅までを広く活用し、「町外から人を呼び込み、町内に滞在してもらうこと」で、外貨を稼ぐシステム作りを進めており、道の駅の成功は都農町の成功といっても過言ではないと思うほど力を入れていきます。
今後は年間の来場者数100万人、売り上げ10億円を目標に、更なる魅力アップ

議会ニュース

・道外行政調査報告④

議会ニュース

・道外行政調査報告③



宮崎県東諸県郡国富町
 人口 18,859人
 世帯数 7,638世帯
 面積 130.63km²
 宮崎県中部に位置し、町役場のある本庄地区は江戸時代は天領(幕府の直轄地)で、水運による物資の集積地として賑わいました。
 現在は農業と先端産業の町となっています。

宮崎県・国富町 「次世代施設園芸による大規模施設(植物工場)の構築」

●次世代施設園芸団地の概要
 農林水産省の次世代施設園芸導入加速支援事業として整備された全国に10拠点あるうちの一つ。
 ハウス、育苗施設、集出荷施設が一体的に整備され、これらの施設には高度なICT(情報通信技術)を活用した「統合型施設園芸生産支援システム」が導入されており、ピーマンとキュウリの育苗から出荷までを一体的に行い、10a当たりの収量が一般的な農家の約1.5倍になることを目標に事業が行われています。

●施設概要
 ・平成27年7月13日竣工
 ・総事業費 14億4300万円

●設置施設
 ①低コスト耐候性ハウス 50a7棟 3.5ha
 ②種苗供給施設 30a2棟 0.6ha
 ③集出荷施設 0.4ha

●統合型施設園芸生産支援システム
 園芸施設の環境制御を行うUECS(※ウエックス・ユビキタス環境制御システム)を核に、多収栽培技術や木質バイオマス暖房機等によるコスト削減、栽培管理履歴・育成データを取り込んだ高度生産管理システムを組み合わせたもの。

●次世代施設園芸団地の運営
 施設園芸団地の事業主体はJA宮崎中央のほか、農業以外の企業も含む12団体で構成された「宮崎中央地域次世代施設園芸コンソーシアム」で



高度にシステム化されたハウス内を視察

●新規就農研修事業
 研修圃場に14棟あるハウス(面積163a)を研修生1人に1棟持たせて、JAの重点作物であるキュウリとミニトマトの栽培を行わせることで、自主性・責任感を養っている。

●調査を終えての所感
 本町とは農業環境は違うものの、冬場の野菜供給はこのような施設があって補えるもので、消費者にとって非常にありがたいものと考えます。今後とも進歩するICTを活用した施設園芸等が、積雪寒冷地でも適用できるようになればと思います。

のため駐車スペースの拡充、参加体験型施設や防災拠点としての機能の充実、新たな特産品の開発を行うところです。

●道の駅「つの」の概要及び運営状況
 道の駅は国道10号線沿に面しており、近くには高速道路のインターチェンジがあるなど交通アクセスに優れています。

また大都市である宮崎市・延岡市から車で1時間の距離にあり、県内で由緒ある一之宮都農神社の隣接地に建設したことで、町外から多くの人々が立ち寄る立地条件となっています。

そのため開設後の来場者数と売上は年々右肩上がり伸びており、平成29年度には年間の来場者数が68万5600人、売上が11億7800万円となっています。

(※売上高の内、店頭販売の売上は4億4千万円、残りの7億4千万円は都農町ふるさと納税返礼品の売上)

●道の駅「つの」施設概要
 ・平成25年7月31日開設
 ・総工費 9億8千万円
 ・敷地面積 21004m²



好立地に整備された道の駅「つの」

●設置施設

- ①物産館
- ②観光交流会館
- ③公衆トイレ
- ④情報休憩コーナー
- ⑤駐車場

男性用	13基
女性用	10基
身障者用	2基

●利用時間
 9時～18時(通年)
 フードコーナー
 10時半～18時(通年)

大型車	10台
普通車	135台
身障者用	2台

●運営会社
 道の駅の運営は都農商工会、JA尾鈴、都農漁協の3者が出資する「(株)都農まちおこし屋」という、全国でも珍しい形態の運営会社が行っています。

●道の駅「つの」出荷者協議会
 道の駅に商品を納入している、都農町と隣町の川南町の生産者の協議会で、現在は330名の会員がいます。道の駅は商品がなければ成り立たないことから、運営会社では生産者も来場者と同様に客と考え大切に扱っており、職員は生産者が納品に訪れた際にコミュニケーションを取り、信頼関係を作ることや肝に銘じているとのことでした。

しかし会員の高齢化が進んでいるため、今後は生産者自身での納品が出来なくなることが懸念されており、商品の集配システムの検討が必要になっています。



地元の特産品が数多く並ぶ物産館

●調査を終えての所感
 道の駅「つの」の好調な運営は、恵まれた立地条件の土地に、まちづくりの拠点として整備を進めたことが大きいと感じました。

本町にも道の駅「サロマ湖・物産館のり」がありますが、道の駅「つの」とは立地条件や気候風土、生活環境の違いがあることや、総務省のふるさと納税返礼品の規制等もある中、今までも増して本町の特色を生かした販売等を展開して欲しいと感じました。

議会ニュース

・委員会レポート

議会ニュース

・道外行政調査報告⑤

■12月4日
◎所管事務調査

- ①ふるさと応援事業寄附金健康診査等実施計画
- ②国民健康保険第3期特定健康診査等実施計画
- ③職員の自己啓発休業に関する条例の一部改正
- ④遠軽地区広域組合の共同処理する事務の変更及び規約の変更
- ⑤業務継続計画の策定
- ⑥高齢者等石油製品価格高騰対策助成事業（福祉灯油）
- ⑦漁村環境改善総合センターの処分に係るスケジュール

その他

常任委員会終了後、現地調査を実施し、①佐呂間コミセン、②バスターミナル、③佐呂間保育所、④高齢者福祉住宅「安心ハウス2」、⑤若佐コミセンを視察しました。

②バスターミナル
昭和62年の建設で、経年劣化により雨漏りが起きていたことから、外壁の改修及び屋根の塗装が行われました。



改修された床や天井の状況を視察（佐呂間コミセン）

①佐呂間コミセン
集会施設や商工会事務所として利用されていますが、老朽化が進んだため施設内部の大規模改修が行われました。



改修により真新しくなったバスターミナル

③佐呂間保育所
玄関やテラスなどの床に、入所児童の安全のため貼られていたゴムチップタイヤが、劣化したことから張替が行われました。



テラス側の張り替えたタイルを視察（佐呂間保育所）



エアコンも完備した安心ハウス2の居室

総務福祉 常任委員会

常任委員会で現地調査を実施

委員会レポート

30年11月、
31年1月

熊本県山鹿市
人口 52,345人
世帯数 21,807世帯
面積 299.69km²
熊本県北部に位置し、平成17年1月に山鹿市・鹿北町・菊鹿町・鹿本町・鹿央町が合併して誕生しました。
江戸時代から賑わう山鹿温泉や、国指定伝統的工芸品の山鹿灯籠を用いた山鹿灯籠まつりが有名な、歴史と伝統のまちです。

熊本・山鹿市

「やまが肝いりどん（結婚支援）事業と「結婚したい」

■やまが肝いりどん（結婚支援）事業の概要
近年の結婚観やライフスタイルの変化により、未婚化・晩婚化が進み少子高齢化が進行することから、定住促進、人口減少対策、地域の活性化のため、山鹿市が結婚相談・支援活動を行う「やまが肝いりどん」事業が平成23年6月から開始されました。

●やまが肝いりどんの仕組み
「肝いりどん」とは結婚を希望する男女の出会いを取り持つお世話役の結婚サポートのことです。事業開始時は市が推薦した5名と、公募で選ばれた7名の12名で構成されています。現在は先に活動していた「肝いりどん」からふさわしい人物が推薦されることで人数が増え、17名（※平均年齢66・1歳）が活動しています。

「肝いりどん」は毎月連絡会議を開き、結婚希望登録をした人をどの「肝いりどん」が担当するか決定し、担当する希望者と面談をして信頼関係を深めながら相談や支援を行い、連絡会議の場で「肝いりどん」同士で条件などの情報交換を行い、登録者の希望に合ったお見合いを設定します。



やまが肝いりどん事業について説明を受ける

●事業の効果と課題
結婚希望者として登録できるのは50歳未満の男女で、山鹿市に居住しているか、結婚後に市に居住する人で、登録期間は2年間。（※再登録は可能）

■調査を終えての所感
「肝いりどん」の活動はほとんどボランティアで負担も多いが、この事業への山鹿市の熱意を理解し、市の明るい未来を期待して引き受けていることで、事業は成功していると考えられます。

本町でも「さるまちこん」などが開催されていますが、成婚に至る数は少ないことから、山鹿市の取組はヒントに出来るものがあるのではと考えさせられるものであります。

平成30年9月末現在で男性76名、女性66名が登録しており、事業開始から平成29年度までに400件のお見合いが行われ、21組が成婚に至っています。

しかし中には登録しただけで安心して、お見合いの際に自分をアピールできないなど、結婚に消極的な人がいることから、平成26年度からは婚活セミナーやイベントなどを開催し、異性へのマナーや接し方を学ぶことで、登録者の結婚への積極性を養う活動も行っているそうです。